

福岡県飯塚市幸袋 築120年古民家『聴福庵』 2017年のあゆみ②

第18号 2017年7月3日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていくよう
活動していきます。

株式会社カグヤ 奥山卓矢

梅雨の『聴福庵』

本誌、第16号に引き続き古民家『聴福庵』(ききふくあん)
についてです。

7月から井戸掘り、風呂小屋を作るに当たり、今回の滞在中に
地鎮祭を（大地鎮・井堀祭）執り行って頂きました。

夏に近づくこの季節、『聴福庵』には涼を感じる道具がいくつも
あります。冬には冬の、夏には夏の古き良き道具があり、
その一つひとつを使用しながら過ごしています。

エアコンがなかった昔、夏の暑さを乗り切るコツや智慧は、
暮らしの中で育まれてきたのかもしれません。

昨年の今頃の聴福庵は、暮らすというには程遠かったですが、
少しずつ本来の輝きを取り戻し、2度目の梅雨の時期を迎えた。



2017年6月21日(水)

縁あって頂いた梅（エビラという品種）市場には出回っていない
貴重な梅のヘタを取り梅干し用、梅酒用に分け追熟。
床の間では左官の小林様に引き続き作業をして頂き、夜は正田邸で
定例の恩袋会が行い、地域発展のための打ち合わせを行いました。

2017年6月22日（木）



地鎮祭（大地鎮、井堀祭）

朝7時 神社の掃除。神社の境内は枯れ葉や草花に覆われ熊の手を用い掃いていきました。神様に失礼のない掃き方の作法があることも今回はじめて知りました。

聴福庵では、台所の天井に使われている石膏ボードをバールやトンカチ等を使い取り外していました。ここには煤竹（すすだけ）を敷き詰める予定です。

2017年6月23日（金）

朝9:30。宮司様に来庵頂き、地鎮祭（大地鎮、井堀祭）を執り行つて頂きました。一つは風呂小屋を建てるため、もう一つは埋めていた井戸を掘り起こすため、ご祈願して頂きました。

午後からは追熟していた梅で梅酒、梅干しの仕込み。台所壁面を柿渋で塗りはじめました。隅々まで柿渋を塗りその上に炭を張り付けていく予定です。



石膏ボードを取り外しています

2017年6月24日（土）

小雨降る中での神社の掃除。境内の掃除も済み、見違えるような雰囲気を放っています。

午後からは大場棟梁に来庵頂き、風呂小屋設計について打ち合わせを行いました。15時からは恩袋会を聴福庵で行いました。



天井に煤竹を敷き詰める予定です

2017年6月25日（日）

聴福庵の掃除。

追熟していた残りの梅も梅干し用の甕に入れ、梅干しの仕込み完了。帰宅の途へ。





ひと段落すると陽が差し込みました



剥ぎ落した天井の石膏ボード

聴福庵を通して感じること

青梅が、日に日に黄色く色づきはじめるにつれ、桃のような甘い香りも広がり、そばを通る度に思わず手に取ってしまいたくなります。

夜の聴福庵は辺りが静まり返り、雨音は自然のBGMのようで、聴き入っているうちに気付いたら深い眠りについています。

「チリン、チリン」と音色を響かせる風鈴、藍色の暖簾がゆらゆら揺れ、打ち水した玄関からひんやり風が抜けていくことを実感します。

梅雨の蒸し暑い季節は苦手ですが、聴福庵にいるとそれさえもこの時期にしか味わえないものがあることを教えてくれます。

大人にとっては慣れ親しんだ季節の巡りも、子どもたちにとっては、初めて出会う季節にいつも心躍らせ、目をキラキラさせているような体験を、改めて大人になった今、聴福庵で疑似体験しているようです。

今回の滞在中、聴福庵のほど近くにある神社の掃除を行いました。日に日にきれいになる境内、掃除をしていると噂をどこかで聞きつけたのか、お参りに来られる方もおられました。

梅雨のこの時季、雨は降っていなくても雲は厚く、太陽は見えません。ですが、ひと段落して休憩をしていると、お社に向かい陽が差しひみ、「神様が喜んでいる！」そんなことを思いました。

私の母が、昔は神社の境内でよく遊んでいたと言っていました。子どもたちの遊ぶ声が響く、それは安心できる場所だと思うと、神社掃除は決して境内を綺麗にするだけではない意義を感じたのです。

(報告者：株式会社カグヤ 奥山卓矢)



〒161-0023

東京都新宿区西新宿 3-2-11 新宿三井ビルディング 2号館 10階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢



メールマガジンのご登録は、
QRコードからお願いします。